

算 数 科 学 習 指 導 案

単元名（題材名）「ひきざん」〔学指要領：A（2）加法、減法、イ（7）〕

令和5年11月6日（月） 第3校時 1年教室

【授業改善の視点】

ひき算の減加法について考える場面において、ロイロノートを用いてブロックを操作したり、書き込んだりして順を追って説明することは、10のまとまりから引いて残りをたすという考えを見いだすことに有効であろう。

本時の学習（2／7）

- 1 ねらい 具体物の操作や図・言葉・式を用いて説明する活動を通して、引く数が大きいひき算のときには減加法で計算ができるようにする。

主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕	主な発問	○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。（8分）</p>	<p>○本時のめあてがつかめるように、前時の問題の式（12－3）との違いを問いかける。</p>	<p>○本時のめあてがつかめるように、前時の問題の式（12－3）との違いを問いかける。</p>
<p><問題>おまんじゅうが12こあります。お客さん9人にあげると、のこりはなんこでしょうか。</p>		
<p>S：この前と問題は同じだけど、お客さんの人数が変わったな。うしろの数が大きいな。</p>	<p>○算数用語を用いて、説明ができるように、一のあとの数字は「引く数」という用語をおさえる。</p> <p>○日常生活の中で場面を想像できるように具体物を用意して、実際に操作するよう促す。</p>	<p>○算数用語を用いて、説明ができるように、一のあとの数字は「引く数」という用語をおさえる。</p> <p>○日常生活の中で場面を想像できるように具体物を用意して、実際に操作するよう促す。</p>
<p><めあて>引く数が大きいときには、どうやって計算するとよいか。</p>		
<p>2 説明を考え、互いに補い合う。（15分） 【★思考の補助】【★データの保存・提出】</p>	<p>「どこから9を取るとよいでしょうか。」</p>	<p>○計算の仕方を説明することに焦点を当てられるように、答えは先に確認しておく。</p> <p>○前時の減々法との違いが分かるように、前時の説明のスライドと比較しながら、考えさせる。</p> <p>○説明する際に図・言葉・式が一緒に考えられるようロイロノート上に書き込んでいくよう促す。</p> <p>○順を追って説明ができるように、ロイロノートのシートを変えるように促す。</p>
<p>S：引く数が大きいから、バラからとると、大変だ。 S：10からとったほうが早いな。</p>		<p>○先ほどの考えを用いて、さくらんぼ算ができるように、やり方を確認する。</p> <p>○適用問題に取り組み、自分で計算ができるようにする。 【★提示・配布】</p>
<p>3 ひき算のさくらんぼ算の仕方についてまとめる。（10分） S：10からまず引いて計算してみよう。 S：普通の計算のときも考え方は同じだな。</p>		<p>○本時の学習のまとめが児童自身で書けるように、めあてを再度確認し、ポイントを問いかける。</p> <p>○意欲につながられるように、自分の言葉で書こうとしている姿勢を賞賛する。</p> <p>○次の時間の学習につながられるように、大きい数とはどのくらいなのか問いかける。</p>
<p>4 本時のめあてに対するまとめと振り返りを書く。（12分） S：今日は、引く数が大きくて大変だったから、バラからとらなかつたな。</p>	<p><まとめ>引く数が大きいひき算のときは、10のまとまりから引いて、のこりをたして計算するとよい。</p> <p><振り返り> S：引く数が大きいと、10からとるやりの方が簡単だったな。</p>	<p>○先ほどの考えを用いて、さくらんぼ算ができるように、やり方を確認する。</p> <p>○適用問題に取り組み、自分で計算ができるようにする。 【★提示・配布】</p>
<p><振り返り> S：引く数が大きいと、10からとるやりの方が簡単だったな。</p>		<p>◆評価項目（思） ノートやロイロノートの記述や説明する姿から、「減加法（10から引いて、残りをたす）について考え、理解しているか」を評価する。</p>